令和２年度和歌山県名匠

やま　うえ　ひろ　やす
山　上　寛　恭

◎　業績及び経歴

高校卒業と同時に、名人といわれた父 山上高司氏に入門し、竿師としての道を歩み始めた。その年の末に父が亡くなったため、叔父山上文雄氏のもとで修業を積み、23歳で独立。父の竿銘 こま鳥 を2代目として引き継ぎ現在に至る。

紀州へら竿は、100年以上の歴史を持つ国の伝統的工芸品であり、職人たちは意匠を凝らしながらその伝統的な製作技術を受け継いできた。

へら竿の製作には、竹伐り、生地組み、荒火入れ、糸巻き、漆塗り、穂先削りなど、細かく分けると130もの作業工程があるが、氏はその全工程を約1年かけてひとりで手がける。しかも、ほぼ全ての工程を手作業で仕上げるため、繊細で卓越した技術と経験が要求される。

氏のへら竿は、伝統の技に工芸品の手法も取り入れられており、竿の握り部分に卵殻を施すなどデザイン性や芸術性も兼ね備えている。また、見た目だけでなく釣り人のニーズに合うよう釣り道具としての機能美にもこだわり、1本1本丁寧に作られた竿は「一生もの」と絶賛されている。

平成28年に和歌山県技能賞を受賞し、平成30年にはその高度な伝統的技法等の習得が認められ、伝統工芸士に認定された。その後も、伝統的工芸品産業功労者等経済産業大臣表彰（令和元年）を受賞した。

また、氏は平成20年から2年間、紀州製竿組合組合長を務め、各地での展示会や全国へラブナ釣り選手権大会を開催する等、へら竿の普及啓発に尽力した。さらに、若手にも惜しみなくその技術を伝え、熱心な指導に取り組む等後継者育成に励んでいる。

このように、熟練の技を持った技術者としてだけでなく紀州へら竿の伝統的な製作技術を後世に引き継ぐ重要な役割を担っており、その功績は多大である。

職　　種：製竿師

住　　所：和歌山県橋本市

生　　年：昭和27年